

¡Hola, amigos!

第056号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2004年12月23日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



「ここ掘れワンワン」の巻



砂浜にアチコチ穴がありますが、これ、何だと思いませんか？

そう、題名からお察しでしょうが、ワン君が掘った穴なんです。もうアチコチ、やたらめったら掘り返してあります。犬がこんなに穴掘りが好きだとは思いませんでした。考えてみればウサギ狩のビーグルなどは穴掘り好きでも当然ですね。

でも、この浜で穴を掘っている奴はビーグルだけではありません。レトリバーだってハウンドだって、小型のテリアの仲間だって負けていません。けれども不思議なことに一生懸命に掘っている犬の傍で全くシラン顔を決め込んでいる奴も居ます。先祖に猟犬の血が混じっているか否かが決め手なのか？外見では区別が出来ません。

あくまで個々の好みなのでしょうか？



コッチは掘り返したばかりのフレッシュなもの、早朝の一仕事。



掘ってエ、掘ってエ、また掘っテェー。



相棒が次々と一生懸命掘っているのに、片方は寝そべりスタイルで「低み」の見物。



ご主人様達はユックリ好きにしてテ、ボク掘っちゃうから・・・。



こういう愛すべきワン君達のためにも、犬禁止なんて言ってもらいたくないですね。
その前に何故、飼い主は始末しろ、と言えないのか？ 砂浜は人間だけのものか？
もっとも、このワン君達なら自分の始末はチャンと自分ですかモ・・・。***

「ウスメ効果」の巻

前号に続いてビーノの話ですから。呑むことに興味のない方は飛ばしてください。

ウスメと言っても、水で、ではありません。私達の晩酌指定銘柄は3ユーロを上限とすべし、で、この二年間やって来ました。ベナルマデナではあらゆるスーパーを巡り歩いてこの条件に当てはまるものを買って漁ってきました。

上限は3ユーロ。では下限は？というと、限りなく水に近い値段のものがあります。例えば、牛乳のような1リットル紙パック入りで0.4ユーロを切るようなものまで様々です。一度、この紙パックの中では最上級のものを呑んで見ましたが、サスガにコレはダメでした。以後、一応下限を1.5ユーロ位としています。

二年間丸々呑み続けるとサスガにこの範囲のものも種が尽きて来ました。ベナルマデナにいるときは、少々手詰まりになったナーと感じていました。

カァディスへ来てからまたあちこちスーパー探険をしてみると、ベナルマデナでは見かけなかった銘柄が結構並んでいて、暫くはまた新しい銘柄の味見が出来そうです。同じスーパー・チェーンの店でも、所によって置いてある品物が必ずしも同じでないのは店長の裁量なのではないでしょうか。定価さえも違うことはしょっちゅうです。

3ユーロ以下のビーノが果たして何種類出回っているのか知りませんが、もう既に味見済みのものが200を超えていますから、価格リミットを守っている限り早晚種切れになることは目に見えています。新しい味見が出来なくなるという事です。

さあ、どーする。そこで妙案を編み出しました。水遁ウスメの術。

例えば2ユーロのビーノを一本、4ユーロのを一本同時に買います。すると3ユーロのを二本買ったのと同じ事ですね。こう考えれば、何も晩酌ビーノは3ユーロまで、に固執しなくたっていいわけ。2ユーロ二本買えば5ユーロ一本買う事も可能です。

$(2 + 2 + 5) \div 3 = 3$ 、これぞウスメ効果です。

現在は桂馬呑みをキッチリ守っていますから月30日のうち20日分、60ユーロ内で20本を買えばいいわけです。サア、こうなると自由自在、4ユーロ・5ユーロなんかメじゃないぜ7でも8でもドンと来い、という事になります。



努力の甲斐あって、私達には1ユーロ台で、しかも十分満足できる晩酌ビーノが何銘柄か有ります。例えば左から BORSAO/1.65ユーロ、Viajero/1.79、これはチリ産のビーノですが、チリのだってポルトガルのだって安くてウマけりや何でもいいんです。この二本は強ーい味方。ウスメ効果抜群です。しかも旨い。ここが肝心、いくら安くても呑むたびに腹が立つようなシロモノじゃいけません。

前号で言い忘れましたが、この BORSAO のDO(産地呼称) Campo de Borja も是非試してみてください。

続いて中央、MONASTERIO DE LAS VIÑAS/2.40、定番中の定番、大のお気に入り。その右やや高目の Monte Ducay/3.75。この二本のDOは例の Cariñena です。そして右端は VIÑA PILAR/5.40、今までなら手を出せないデンジャー・ゾーン。以上5本の合計は？ 14.99。セーフ！！ この効果を駆使すれば今まで横目で睨んで通り過ぎた棚からも思うがまま。めでたし、メデタシ。***

「アエロプエルト探険」の巻

カァディスで利用し得る空港はヘレス・デ・ラ・フロンテーラ、マラガ、ジブラルタル、セビージャの四箇所が考えられます。

このうち一番近いのはヘレスですが、今までに得た情報では、この空港はあまりにも発着便の数が少なすぎて利用し難い。私達もこの空港利用については殆ど期待していません。そのうちもっと良く調べてみようとは思っています。

マラガ空港は、欧州各地からの便は多くて一番いいんですがいかにも遠く、その上マラガ～カァディス間の交通がとても不便なので、その日のうちにカァディスへたどり着くには余程いい時間帯の到着便でないといけません。

ジブラルタルは距離的にはマラガより近いですが、イギリス経由に限定されます。セビージャ空港の便数はマラガに較べるとグッと少なくなります。空港に20時以前に到着する便を選べばカァディス行き最終電車に間に合うし、出発便も朝10時以後の便なら当日の朝ウチを出れば間に合います。

結局、今のところ日本からのゲストをお迎えするのはセビージャが一番妥当と思っています。そこで、私達もまだ行った事のないこの空港のことをチャンと知っておこうと予行演習に出かけました。私達自身が迷ったんじゃ話しになりませんからね。

カァディス発セビージャ行きの朝一番と二番の電車は最寄駅エスタディオ (Estadio) にも止まります。エスタディオ駅を一番は6時丁度、二番は7時02分、この日は二番電車に乗りました。セビージャのサンタ・フスタ (Sevilla Santa Justa) 駅には8時53分の到着予定、所要時間1時間51分です。

今年は隣町プエルト・レアルの造船所の労働争議で鉄道も大きな影響を受けたらしく家探しに来ていた頃は、乗っていた電車が途中で運行停止になるかも知れないと言われた事もありました。最近はその争議も小康状態になっているようです。

朝7時前の駅は改札口もホームもこの通り。こちら側セビージャ行きのほうには10人前後、反対側カァディス行きのほうは全く無人でした。

この駅が多少とも混むのは、この駅のすぐ前にあるサッカー場で地元チームのホーム・ゲームがある時だけではないかと思えます。



私達もこの駅を利用するのは初めてです。駅舎に入ってすぐ気が付く事は、マラガ地区の駅より全てが新しいという事。近郊線の自動券売機もタッチパネル式だし、地下のホームの照明も明るい、マラガ近郊線の地下駅の暗さとは対照的です。この部分は複線で、カアディス方面に向って二駅分、殆ど真っ直ぐのトンネルが広々と見通せます。マラガ線の息苦しくなるような暗く狭い単線トンネルとは大分ちがいます。



朝7時はまだ真っ暗。車はポツポツ走ってはいますが、通りを歩く人は殆ど見当りません。ウチから駅まで約600メートルですが、この間誰にも出会いませんでした。私達自身もこんなに早起きをしたのはこの町へ来てから初めて、遠出するのも初めてです。

切符売り場は開いてるだろうか？ ベナルマデナの駅は暗いうちから開いている事はありませんでした。遠出のため早起きする度に、券売機が故障したりコインや小額紙幣を持ってない人がいたらどうするんだろうと心配になったものです。券売機が使えなかったり、紙幣をはじいてしまう、またはお釣りが出ない、なんて事はしょっちゅうでしたから。エスタディオの出札窓口はちゃんと開いてました、ヤレヤレ。

電車に乗るのも引越してからは初めてです。ここはタルヘタ・ドラーダの出番。何しろ4割引きですから、チョッと遠くまで行けばすぐ晩酌ビーノ一本タダになります。ドーモ言う事がついミミッチくなくなっていけません。

セビージャ迄往復1枚、タルヘタ・ドラーダの往復1枚、と言うと出札係りの女性はグイッと眉を上げてRの顔を見ましたが、タルヘタを見せろとは言いませんでした。まあ、それなりのトシに見えたという事でしょう。前に国鉄には女性職員が居ないと文句を言いましたが、ここには居ました。女性の進出。結構、ケッコウ。

右上がN用普通の往復券15.20ユーロ、右下がタルヘタ・ドラーダ用割引往復券10.10ユーロ。アレ、4割引にはなっていないね。出札係のセニョリータは後の男性に教えてもらいながらコンピューターを操作してたけどダイジョーブかなー？
15.20の6割は9.12だから9.1か9.2ユーロになるはずですよ。でも切符は10.1ユーロ。まっ、いいか $15.2 - 10.1 = 5.1$ で晩酌二本分浮いたしね。

後でヨークク考えたら仕掛けがわかりました。Nの15.2ユーロは往復割引をされた料金なんですよ。片道料金がいくらか知りませんが15.2の半分7.6よりは高いはず。Rのタルヘタ・ドラーダ用割引券はその正規片道料金の6割の2倍、要するに
ドラーダの割引をしたら往復割引はしない、という事なんですよ。

前にマラガ〜カァデイス間の切符を買った時は、片道切符だったからドンピシャ4割引きになっていたんですね。

私達は日本では往復切符というのを買った記憶がありません。日本では切符を買うのに苦勞する事はあまりありませんからね。だから確信はないんですが、日本の往復券は割引があるんでしょうか。なかったはずですよ。周遊券とか熟年カップル用の割引とか青春18とか色々割引券はあるようですがいずれも使ったことがないんです。
とにかく、結論としては、ドラーダの割引をした上往復の割引はしない、二重の割引はしないよ、という事だと思います。往復券は15日間有効。

日本で切符売り場の上に必ず掲示してある運賃表は見たことありません。近郊線の運賃表だけは小さい掲示がありますが、とにかくあらゆる案内表示が不足です。
またしても、分からなければお聞きなさい、です。聞けば親切に教えてくれるんでしょうね。でもヒトにモノを聞くことがきらいなモノにはこの上なく不便です。

左側の二枚は改札機用の切符、というのは、レヒオナーレス(中距離・地方鉄道)には改札はなく車内検札だけですが、セルカニマス(近郊線)には改札口の有る駅もあるからです。この駅はセルカニマスと地方鉄道の両方が止まり、改札機もあるのでその通過だけに使う切符なのです。PASE I/V TORNQUETE とプリントされてますね。PASEは通行券、I/Vは往復、TORNQUETEは改札機のことです。



これがカアディス～セビージャ間を1時間50数分で結ぶアンダルシア・エクスプレス。マラガ～セビージャ間の気動車と違って、この区間は電化されているので、車体も煙で汚れていないし、スピードもまざまざ、エクスプレスの名に恥じません。車内も近郊線に較べるとずっときれいだし足元が広々して私達のような短足では足をいっぱい伸ばしてもOK。乗り心地の点ではバスよりはるかにいい事は確かです。エスタディオで乗り込んだ時は乗客はパラパラ、大部分単独の客のようで、その殆どはヘレスやセビージャへ仕事で行くヒトのように見受けました。そして、意外なことを二つ発見。第一、乗客の半数以上がネている事。何かで読んだ記憶では、欧米人は日本の電車やバスで乗客の多くがネているのを、とても奇異で無防備な事と考えているらしい。なるほど、今まで余りこういう光景は見たことがありません。第二、寝ていない客の多くは本を読んでいる！！か、イアーフォーンを耳につけている事。一体、コリャドーしたことでしょう。今までのスペインの乗り物の印象と言ったら、ワイワイがやがやに尽きると思っていたのに……。しかし、良く考えてみると、この早朝(7時は早朝です)殆どのヒトが寝足りてないし、連れの居ない単独行ではお得意のおしゃべりの相手が居ないので。ネるか本読むしかないわけ。



セヴィージャ・サンタ・フスタ駅は言わばセビージャ中央駅で中・長距離電車の始発・終着駅です。この通り12番線まであって、私達がこの国へ来てから見た最も賑わいのある駅。それも当然、なにしろセビージャはアンダルシア州都、数年前の資料では人口70万、スペインでは第四の大都市なんだそうです。

11・12番線に入っているのが矢印とR合体のロゴが入った地方鉄道。私達が乗ったアンダルシア・エクスプレスもこの仲間です。

こういう駅には改札機はなく、近郊線用のホームだけに付いています。この地方鉄道も乗り降りには直接そのまま、改札口というものはありません。

また、この駅はスペイン版新幹線の初代のライン、マドリー(ド)からのAVEの終着駅でもあります。AVEというのはAlta Velocidad Española(スペイン特急?)の略ですが、aveとは鳥・鳥類と言う意味でもあり、特急つばめ・はとの発想と通じています。次の写真がそのAVEのホーム。新幹線風がAVE、一番右は長距離特急の一つでしょう。マドリー(ド)～カアディス間はAlariaという特急があり、これに乗れば5時間弱ですが、一日にわずか2本きりというのが泣き所。



これは、駅の正面、なんとも殺風景ですね。まあ、鉄道駅としての機能さえ十分に果たしてくれればいいのですが、あまりの芸のなさにチョットがっかり。

この正面入口直前に空港行きバスの停留所があります。バスは大体30分間隔の運行です。私達の電車が着いたのは8時53分。ところが8時台は15分と45分、そしてそれから9時45分まで1時間飛びなんです。

待つしかありません。目の前にはタクシーの大群が客待ちをしていますが、今の私達にはタクシーの存在はないも同然。それから、待つことしばし、どころではなく、バスがやっと来たのは次の次、10時15分発に引つつくんじゃないかと思うくらい遅れて10時05分を大分過ぎた頃、スペインバスの面目躍如です。

一緒に待っていたのはスペイン人老若各一組のカップルと単独の北欧人らしい男性と私達。みんな時計を見てはそわそわ。特に老夫婦はカナリ不満そうでした。一番落ち着いていたのは私達。そりゃそーですよ、コッチは飛行機に乗るわけじゃないんだから……。空港までの所要時間は約15分、料金2.3ユーロはこの距離にしては異常と言えるくらいの高料金。とかく空港が絡むと諸事万端高くなる典型です。

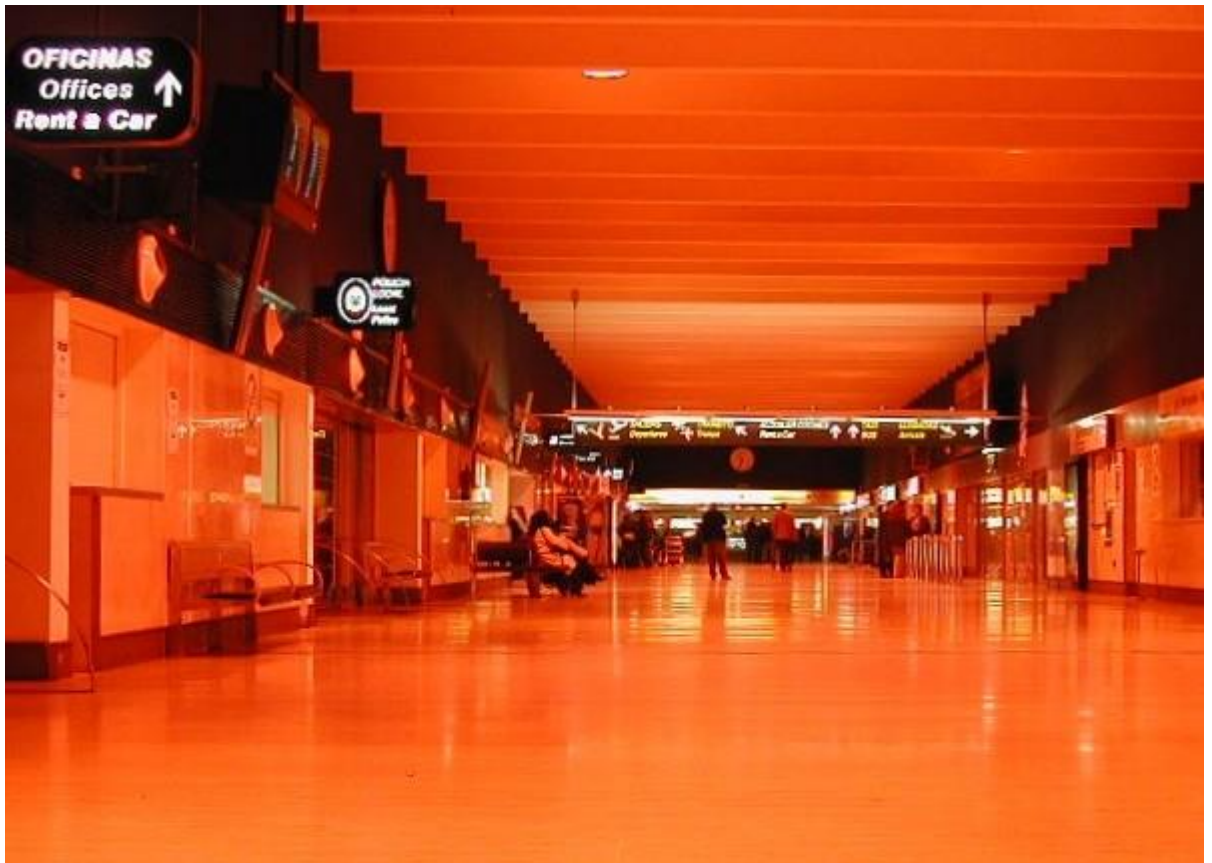
こんなに遅れるんだから満員状態に違いないと思いきや、バスはガラガラ。

前のベナルマデナの路線バスで見ていると、多くの乗客はバスに乗り込んでからドライバーに自分の行きたい所を通るかどうかをマズ聞いています。次に料金を聞く。それからヤオラ財布を出し、という具合。皆が皆そうではありませんが、カナリのヒトがそうだし、とくにオバサンに圧倒的にその傾向が強い。地理に疎い外国人が、ではありませんよ。ペラペラ捲くし立てている所を見れば明らかにスペインのオバサンです。だから、満員状態になるくらいの乗客が乗ってくるまでにはほとんどもなく時間がかかるんです。ドライバーも決して急がないし……。だからバスの時間表なんててんで当てにならない。ベナルマデナではイヤと言うほど経験した不都合でした。

バス会社も路線図や料金の表示をして不慣れな乗客に案内する気はないのです。

カフェイスに来てからはバスについての不都合は全て忘れてましたが、ココでは久しぶりに、バスの来る方角をニラむ、という動作を思い出しました。

さて、いよいよ空港、テルミナル・サン・パブロ(Terminal San Pablo)です。



上は出発ロビー、下は到着ロビー。なんと閑散としている事か。

この空港が混雑するのは、セビージャの春祭り・フェリアの時期と何処の都市でもヒトが集るセマナ・サンタだけではないでしょうか。夏はカアディス方面の海に散って休暇を過ごす人達や外国からの観光客で多少賑わうのですが、冬の今、昼日中この調子です。混み合うところがきれいな方は11・12月がお勧めだと思います。

この時期の到着ロビーでは出迎えにも安心、すれ違いなど起きっこありません。左手の壁の向こうが手荷物を受け取るコンベヤーのあるスペース。右手の壁の向こうがすぐタクシー・バス乗り場。

一通り両ロビーを見れば、長居は無用、発着便の時間表を貰って、帰りのバスを待ちました。なんと市内行きのバスは私達の借り切り。他の乗客ゼロ。コレじゃ少しぐらい高くても文句は言えませんね。



帰りは国鉄駅では下りずそのまま市内の長距離バスセンターまで行きました。駅から市内中心部までは10分足らず。交通渋滞も全くナシ。この距離で何故20分以上の遅れが出たのか、改めて大いなる疑問です。



これが旧市街中心部に近いエスタシオン・デ・アウトブセス(長距離バスセンター)です。ここからバスでカアディスへ行くことも可能ですが、セビージャ〜カディス間に限っては電車で軍配を上げざるを得ません。国鉄駅のほうが空港に近いし、車内も快適だし、速いし、その上スペイン国鉄の常識を破ってバスより安いんです。

さて、終りにセビージャ空港の発着便についてですが、残念ながら決して便利ではありません。空港で貰ってきたのは冬季時刻表でしたが、主だった空港からの到着便は次のとおりです。但し、共同運行便や曜日変化もあり正確ではないかも知れません。

まず、スペイン国内主要都市からはバルセロナが断然多くて一日16便、以下、マドリー(ド)・7便、バレンシア・6便です。基本的に出発便も同数です。

欧州各国からは、ブラッセル・週5日各1便、デュッセルドルフ・週2日各1便、ロンドン・ガトウィック毎日1便、ヒースロー・毎日1便、ロンドン・スタンステッド・毎日1便、パリ・毎日3便、ミラノ・毎日1便、ミュンヘン・毎日1便、などとなっています。マラガ空港に較べるとお話にならないくらい発着便が少ない。

日本からの旅は 経由地が何処であろうと、乗り継ぎにかなりのロス・タイムが生じるでしょう、場合によってはスペインについてから更に一晩。私達を訪ねてくださる予定のある方には申し訳ないことです。♪おウチがだんだん遠くなるー♪***
